

第10回埼玉県障害者アート企画展

うふっ

あなたの

心を

ノック

アート!?

本展は今年で10周年。毎年、県の

表現活動状況調査により集まる多彩な表現

にノックアウトされながら、

福祉の職員と美術の専門家等

が多様な視点を交えて出展作家

を選考。アートの源泉を探り

ながら、社会の既成概念を打ち破り

未来を拓く可能性を秘めた

障害のある人たちの表現を発信してきました。

今年もパワー溢れる無差別級の

ノックアート約300点を

紹介します。

KNOCK

ART

芸術は無差別級

ten

十

TAMAP

ここで出 新たなアートの地平へと誘ってくださることでしょう。

会う表現が、きっとあなたの心をノックして

会期中無休

第10回埼玉県障害者アート企画展

Knock art 10

芸術は無差別級

入場無料

2019年12月4日(水)

8日(日)

10時~17時

埼玉県立近代美術館

主催：埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±O、社会福祉法人みぬま福祉会 共催：埼玉県 後援(予定)：土尾市、春日部市、川口市、川越市、川島町、行田市、久喜市、熊谷市、鴻巣市、さいたま市、白岡市、秩父市、所沢市、戸田市、新座市、蓮田市、東松山市、日高市、三郷市、皆野町、吉川市、嵐山町、JR東日本大宮支社 協力：埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会、アートセンター集協力委員、con*tio 助成：令和元年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業 キュレーション：中津川 浩章

Knock art 10

福祉とアートは一見すると水と油です。アートは才能やクオリティ、希少性に意味と価値を見出していく部分があり、一方福祉は公平性や平等性そして日々の暮らしや想いに価値を置いている。しかし福祉とアートには、そうした水と油のような価値観ではなく、もう一步内側の、深い場所での出会いがあります。

ご覧いただく135名の作家による作品は30団体の福祉施設のスタッフとアート・教育・デザイン・法律等の各専門家が対話を重ねセレクトしました。

さまざまなことが不自由な生きづらい人にとって、表現することは生きることそのもの。コミュニケーションと芸術の間を横断しながら、それぞれの切実な必然性から生まれてくる作品の数々は、生きるエネルギーに満ち、見る者を強く揺さぶります。

さらに何かを説明するためではなく、線を描くという行為それ自体にどういう意味があるのか。外側の規範によらず、感じたままの形を描き色彩を描くということの意味は？人間が表現するということは根源的にどのようなことなのか……作品からの問いかけは、1万5千年前のラスコーの洞窟壁画が投げかける問いと重なります。

福祉とアート等それぞれからの目線が交錯し、越境することで浮かび上がる新しい視野の広がり。人間が表現することの原点が、ここに 있습니다。



大森 郁夫

アートディレクター 中津川 浩章



山崎 利之

関連企画

埼玉県障害者アート企画展10周年特別講演 「障害者アートの魅力と可能性」

アーティストとしての活動や展覧会のキュレーション、障害者アートのサポートなど国内外で活躍の中津川氏に障害者アートの魅力を語っていただきます。障害者アートの特徴や、現代アートとの比較、今後の展望など具体的に分かりやすくお話しいただきます。



福島 尚

12月4日[水] 14:00~(開場13:30)

講師:中津川 浩章氏(美術家・キュレーター)
会場:埼玉県立近代美術館 講堂(2階)
定員:先着100名(無料・申し込み不要)



関口 エイ子

イベント

アーティストトーク 12月6日[金]・7日[土] 11:00~
出展作家や支援者が作品の“想い”を語ります。

ギャラリートーク 12月8日[日] 10:00~
本展キュレーターの中津川浩章氏と新潟市美術館館長の前山裕司氏が展示作品の魅力をご紹介します。

吉川 健司



ユキウサギ

会場 入場無料

埼玉県立近代美術館 一般展示室1・2(地下1階)

埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1

Tel:048-824-0111

※JR京浜東北線北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)
※駐車スペースがないためお車の場合は予め周辺駐車場をご確認ください。



武石 トシ子

お問い合わせ



アートセンター集(社会福祉法人みぬま福祉会 工房集内)

Tel:048-290-7355 Fax:048-290-7356

E-mail:kobo-syu@marble.ocn.ne.jp URL:http://artcenter-syu.com

